

立石公民館だより No. 21



今年度も
有難うございました

さようなら！平成三十年

度
早いもので一年が過ぎようとしてい
ます。

皆様のおかげで今年度も恙なく様々
な行事を行うことができました。

その活動においては、塔鼻大介会長
・山本英喜副会長・穂吉文博副会長の
新体制のもと、たくさんの方の地区の皆様
が参加してくださりました。

まず、五月十三日に行いました「健
全育成ふれあいまつり」と「立石防災
フェスタ」は、お天気にも恵まられまし
た。

立石婦人会の手作り豚汁は、グラウ
ンドゴルフで疲れた身体に染み入りま
した。

また、立石体育館で行われた非常時
体験訓練は、とっさの判断に役立つこ
とになるでしょう。

六月二十四日、日曜日の早朝には、
恒例の「美化リレー」がありました。

旧国道十号線沿いの空き缶拾いに加
え、公民館横に植えているラベンダー
摘みにも精を出していただきました。

三世代運動会と 生き粋健老祭り

編集責任者

村上 深幸

平成三十一年三月



笑顔がいちばん！

九月二十三日には、立石小学校
で三世代ふれあい秋季大運動会が
ありました。

例年のごとく、たくさんの方の地区
の皆様が運動会を盛り上げてくだ
さいました。

児童数の減少により寂しくなる
一方で地域みんなで作りに上げる運
動会には笑顔がはじけました。

また、十一月二十五日には第十
回立石地区敬老会「生き粋健老祭
り」が行われました。

今年度は、大分県かほす大使で
もあります「麻生八咫」さんをメ
インゲストに迎え、昔懐かしい「
無声映画」の「活弁」の世界に浸
りました。

「赤城の山も今宵限り」の名セ
リフに会場に一体感が生まれまし
た。

婦人会の手作り劇や立石こども
園のお遊戯も花を添えてくださ
いました。

県指定
杵形文化財
立石楽

お見守りください

平成最後の年の二月十三日、立石楽継承活動応援隊が発足しました。

現在は、楽打ち部十八名、活動支援部五十四名が所属しています。

楽打ちは、小中高生を中心に毎週水曜日午後六時から立石公民館にて練習を重ねています。

活動応援隊は、楽披露の時に物心両面において支えていきます。

形のないものはいつかは忘れ去られます。それは世の常ですが、今を生きる私たちが少しでも生きていくことをしたいきます。無理はしないで少しだけお見守りいただければ幸甚に存じます。そして何時でもお仲間を募集しておりますので、お気軽にお申出ください。



山田蘇作（第百五十五回忌法要）と
野口善兵衛（生誕二百年！）

十一月十六日、山田蘇作先生第百五十五回忌法要がありました。

今年度も立石小学校六年生をはじめ多くの方々に足をお運びいただき誠に執り行われました。

蘇作先生は、立石の教育の恩人として人々に偲ばれてきました。

蘇作先生は平戸のご出身ですが、江戸からここ立石まで護送してきたのが、野口善兵衛だといわれています。

野口善兵衛は、文政二年（一八一九年）野口儀一郎の長男として立石に生まれました。

農業用水を天水に頼らざるを得ない厳しい環境のもと領主の許可を得て溜池の必要性を説きました。

楠原大池をはじめ生涯十五の溜池工事を行ったとされます。

また、農家の収入源の確保として、はげの木の植え付けや杉、桧の植林も行ったそうです。立石の産業の恩人といえるでしょう。



さて、今年野口善兵衛、生誕二百年になります。

大分県立先哲史料館におきまして五月中旬から「野口善兵衛生誕二百年」の記念企画展が予定されています。一人でも多くの方にご覧いただきたく存じます。



つながり

春の便りも聞こえてくるいい季節になってまいりました。

「立石おせっかいたまつり」と書かれた赤いのぼりを目印に三月、四月の二十一日に、まわってみませんか。

「元氣やったかい」、「久しぶりやな」の言葉のキャッチボールができる場所になるお手伝いができればいいなと思います。

最後までお付き合いいただきありがとうございます。それではまた。